

-- 第52回 地域リハビリテーションケース会議 --

【テーマ】

「やりたい」を支援するチームの力 ～活動と参加へつなげる支援の実践～

今回は、脳梗塞後に左片麻痺の後遺症が残りながらも、ご自宅で一人暮らしを継続している事例を取り上げます。「その人らしさ」を支援するとはどういうことか、専門職として必要な視点や関わりとは何かを回復期リハから取り組み、在宅生活につなげチームで支援した過程をそれぞれの立場から報告していただきます。地域リハビリテーションの根幹である「住み慣れた地域でその人らしい暮らし」を支えることについて皆様と一緒に考えたいと思いますので、ぜひご参加ください。



参加費

無料

【日時】令和7年12月10日(水)18:30～20:30

【場所】ウェル戸畑 中ホール

【対象】保健、医療、福祉、介護の関係者、その他関心のある方

【申込み】QRコードからお申込みをください。

【内容】



期限：11/30(火)

コーディネーター：浜村 明德 氏（小倉リハビリテーション病院 名誉院長）
橋元 隆 氏（九州栄養福祉大学 理学療法学科 教授）

コメンテーター/ミニ講座：『(仮)塞栓性脳梗塞の特性について』
松嶋 康之 氏（産業医科大学リハビリテーション医学講座 准教授）

事例報告：4名

- ・大内田 麻里子 氏（北九州福祉サービスケアプランセンター八幡東 ケアマネジャー）
- ・河田 裕行 氏（小倉リハビリテーション病院 理学療法士）
- ・谷 江理 氏（小倉リハビリテーション病院 作業療法士）
- ・小林 章悟 氏（デイサービスファイン 作業療法士）